

## 2011（平成23）年度事業報告書

2011（平成23）年4月1日から2012（平成24）年3月31日まで

特定非営利活動法人おきなわCAPセンター

### 1 事業の成果

3年目となる浦添市と、新規の那覇市からの委託事業が主となり、昨年度の172回を大きく上回る229回のワークショップを提供することができた。中でも中学校でのワークショップの広がりが著しく、県内中学3年生全員に冊子を配布した「15才の君へ」事業や、思春期をテーマにした講演会の開催など思春期の子どもとそれに関わる大人支援に力を注いだ設立15周年にふさわしい1年となった。

昨年に続き今年度もWAM（独立行政法人福祉医療機構）の助成を受けて、県内各地で幅広くモデル事業としてワークショップを開催し、その成果をまとめた報告集を作成。併せて当センターの活動も紹介する成果報告会や、全国トレーナーを招いての「子どもへの暴力防止のための基礎講座」を沖縄県で開催することができた。

また、設立15周年記念講演会「思春期の子どもとは、解決志向でうまくいく！」は、沖縄県地域子育て創生事業補助を受け2ヶ所で開催。大盛況の中、おきなわCAPセンターの名を広く県民に浸透させることができた。

### 2 特定非営利活動に係る事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施回数	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
子どもへのCAPワークショップ（暴力防止プログラム）提供事業	CAP小学生ワークショップ	37回	県内各小学校	約20人	1150人	8,828
	CAP就学前ワークショップ	28回	県内各保育所・幼稚園		586人	
	CAP中学生ワークショップ	69回	県内各中学校		2457人	
	CAP高校生ワークショップ	6回	県内高校（真和志）		199人	
	その他子ども向けワークショップ	16回	県内特別支援学校・児童養護施設学童クラブ		230人	

大人への C A P ワーク ショップ 提供事業	C A P 大人ワー クショップ	36 回	県内 各学校、保 育所、幼稚 園	約 20 人	1 0 6 8 人	
	C A P 教職員ワ ークショップ	10 回	金城中、伊江 中、真和志高、 北中城小、他		2 3 5 人	
	その他 連携機関、大学	25 回	連携機関・大 学・児童課等		7 7 0 人	
ワークショ ップ提供の ための人材 育成事業	県外研修会	0 回		0 人	0 人	1,109
	県内研修会	6 回	沖縄県総合福 祉センター他	3 人	1 2 人	
	定例会	月 1 回	すぺーす結他	3 人	1 0 0 人	
	(WAM の研修) ・ SNP 実践者研修 ・ 暴力防止基礎講座 ・ トークタイム研修	3 回	すぺーす結、て いるる、那覇市 NPO 支援セン ター	3 人	5 0 人	
子どもへの 暴力防止に ついての学 習啓発事業	公開講座・講演会	4 回	那覇市総合福 祉センター、沖 縄県総合福祉 センター他	10 人	6 2 0 人	3,142
	主催ワークショ ップ	2 回	沖縄県総合福 祉センター他	10 人	4 6 人	
	地域リーダー養 成講座	7 回	なは女性セ ンター、県 立武道館	3 人	1 7 1 人	
地域ネット ワーク事業	地域ネットワー ク会議	6 回	沖縄県庁、那覇 市役所他	8 人	約 3 0 人	1,895
	インターン受け 入れ	3 回	事務所等	5 人	1 4 人	

	モデル事業成果 報告会	1回	県立博物館・美術館	10人	約100人	
	報告集作成	1回	県内	3人	2500ヶ所	
会報等の発行事業	会報の発行 ホームページ	年3回 随時	事務所	4人	会員他関係 機関750人	892
	CAPノート配布	1回	県内	5人	約17000人	
その他、目的を達成するために必要な事業	本の販売	適宜	県内	約20人	関心のある 大人	571

## 平成23年度事業について

### (1) CAPワークショップ（暴力防止プログラム）提供事業

浦添市（児童虐待防止ネットワーク事業）からの委託（34回）と、那覇市（思春期の心と体のための意識啓発事業）からの委託（64回）を中心に、WAM助成によるモデル事業（36回）も合わせて、昨年度を上回る229回のワークショップを提供することができた。

子どもへのプログラム提供事業は、156回実施。小学生対象のワークショップは計画を下回ったが、中学生においては目標を上回って実施することができ、過去最高の数字となった。実施後の子どもアンケートや先生の感想から、中学校での今後の広がりや手応えをつかんだ。

大人へのプログラム提供事業は73回実施。中でも、初の試みで好評だった「妊婦さん向け」プログラムは、今後の展開が期待できるものである。また、WAM助成やフィリップモリス助成、里親会からの委託により、離島を含めて県内5ヶ所の児童養護施設でワークショップを実施することができたことや、学童クラブでの依頼が増えたことも大きな成果である。

### (2) ワorkshop提供のための人材育成事業

WAMの助成を受け、SNP実践者研修やトークタイム研修を行い、ワークショップを提供する上での目的や意義をCAP全国トレーナーから学ぶことができた。また、「子どもへの暴力防止のための基礎講座」を開催して、当団体

のメンバーに加わる人材を育成することができた。県外研修への派遣はなかったが、全国トレーナーを4人も沖縄に招いてメンバーが揃ってスキルアップを図れたことは意義深い。

県内研修として、「ジョイント研修」に長田、西、渡邊、糸数が、「DV防止研修会」に髙原と屋良が参加。他にも「本当の障がい理解」「NPO会計研修」（髙原）「地域や社会に支えられる活動・団体研修」（小栗、島袋）「認定NPO取得に向けて」（中村、湧川）。どれもが今後の活動に活かされる有意義な研修会であり、様々な顔ぶれのメンバーが参加して報告し合うことで、各自が責任を持って参加することができ、メンバーの意識も高まった。

毎月1回行う定例会では、主にワークショップの報告、振り返り、練習を行い、そのつど注意事項を伝え合ってお互いにスキルを高めることができた。

### （3）子どもへの暴力防止についての学習・啓発事業

2011年総会記念講演として、沖縄県ボランティア・市民活動支援センター職員で当団体理事の西智子を講師に「被災者主体のボランティア・コーディネーションとは」（5月28日）を開催。東日本大震災後、被災地でボランティア支援を行った講師の経験をもとに、エンパワメントの視点から行う支援の仕方や、被災した方との向き合い方について深く学ぶことができた。

また、アメリカの精神保健、児童福祉の現場で活躍してきた定子・与那覇・トゥーシーさんを招いて「私流の仕事、子育て、生き方」講座も開催。

さらに、昨年度好評だった「思春期の子どもとは、解決志向でうまくいく！」（講師：長田清）を、設立15周年記念講演として沖縄県地域子育て創生事業補助を受けて2ヶ所で開催。思春期の子どもとの接し方や対応に悩む親や教師等、両会場あわせて550名もの参加者が集まり、グループワークを交えて今日から使えるコツとスキルを楽しく伝えた。その講演録も作成して県内の学校、関係機関に贈呈した。

地域リーダー養成講座として、「大人力UPのための6つのヒント」（全6回）を開催。メンバーによる自己尊重講座、体幹トレーニングの他、外部講師による「救急救命法」「思春期の性について」など幅広い分野の講座を開催。様々な角度からCAPを知らなかった人達を取り込むことができ、助成金で無料の託児をつけたことも集客アップの大きな要因であった。「ファシリテーター養成講座」には、エンパワメントセンターから森田ゆりさんを講師に招き、参加者に専門技術と知識を身につけてもらうことができた。

### （4）地域ネットワーク事業

「沖縄県要保護児童対策協議会代表者会議」へ中村が、「那覇市要保護児童

対策地域協議会の代表者会議」「すこやか親子 2010」「次世代育成支援対策推進協議会」に糸数が出席して子どもを支援する関係機関との連携強化を図った。他にも「地域社会のみらいを考える円卓会議」に糸数、「沖縄地域社会ビジョン大学院」に棚原、上野、糸数が参加して、企業や関係機関に活動を紹介した。

また、名桜大学、那覇看護専門学校、ぐしかわ看護専門学校からの依頼でインターンを受け入れ、学生たちにCAPの活動内容を説明し、子どもへの暴力防止や虐待予防について質疑応答を繰り返しながら丁寧に伝えた。

さらに、WAMの助成を受けて行ったモデル事業の成果報告会を開催。専門職を多く含む100名の参加者と沖縄型の虐待予防について考え、県内各地で開催したモデル事業の内容と成果を報告した。また、このモデル事業をまとめた報告書「CAP式安心な地域づくり」を作成し、県内の学校、保育所、幼稚園、市町村、教育委員会、関係機関等2500ヶ所に配布。子どもへの暴力防止の活動をこれまで以上にわかりやすく紹介したことで、今後のネットワークの広がりが期待できる。

メディアにおいては、県の広報番組「うまんちゅひろば」（島袋）や、ラジオ「FMレキオ」（宮国）「FMタイフーン」（糸数、棚原）に出演して広く県民に活動をPRした。

#### （5）会報等の発行事業

通信を年3回発行。会員と関係機関の他、広報のためにも広く配布した。

また、沖縄県社会福祉協議会の地域福祉基金補助を受け、「15才の君へ」事業を実施。暴力防止の方法を子どもたちに伝える冊子『CAPノート』を増刷して、県教育庁で17000冊の贈呈式を行った後、県内の中学3年生（15歳）全員に配布した。

また、ホームページと講演会ブログも随時更新し、情報の発信に努めた。

#### （6）その他、目的を達成するために必要な事業

大人ワークショップや講演会で販売する「CAP生活」「CAPノート」（おきなわCAPセンター発行）「気持ちの本」「あなたが守るあなたの心あなたの体」（森田ゆり作）に加えて今年度から「しつけと体罰」（森田著）と「ほめ日記」（手塚千砂子著）を販売。「人権」「自己尊重」「子育て」について、持ち帰って家庭や学校で考える復習用の冊子として好評な売れ行きを保っている。